

2019 年 7 月

プレスインフォメーション

新型 Audi Q8

目次

▶ パッケージング	2
▶ エクステリアデザイン	3
▶ ライティングデザインとテクノロジー	4
▶ ドライブトレインとシャシー	5
▶ ボディ	8
▶ インテリア	9
▶ 操作系とインフォテインメント	11
▶ ドライバーアシスタンスシステム	12

詳細製品情報： Audi Q8

Audi Q8： Q ファミリーの新たなフラッグシップ



Audi Q8は、4ドアのラグジュアリークーペを連想させるエレガントなスタイルと、大型SUVの実用性という、2つの世界の優れた特徴を兼ね備えています。広々としたインテリア、多用途に使えるラゲージコンパートメント、最先端の操作コンセプト、インテリジェントなアシスタンスシステムを融合したAudi Q8は、ビジネスやレジャーにおける最高のパートナーとなるでしょう。最高出力250kW（340ps）のパワフルで効率的な3.0 TFSIエンジンは、48V駆動のマイルドハイブリッドシステムと組み合わせられ、力強いデザインにふさわしいダイナミクスと高効率を提供します。quattro（フルタイム4WDシステム）と最大およそ245mmの最低地上高により、この新型SUVクーペは、たとえ旅先で舗装路が途切れても、安心して走行を続けることができます。

パッケージング

新型 Audi Q8 のボディサイズは全長4,995mm、全幅 1,995mm、全高 1,705mm で、アウディの SUV ラインナップの中でも、際立ったスポーツ性とprestige性を有しています。クーペのようなルーフラインとフレームレスドアを持ち、車高は Q7 より 30mm 低く設定されています。Q7 と比較すると全長は 75mm 短く、全幅は 25mm 広がっています。精悍なフロントエンド、短いリヤオーバーハング、最大およそ 245mm の最低地上高（アダプティブエアサスペンション装着車）、22 インチの大径ホイール（タイヤ外径は 795mm）により、Q8 は、パワフルなダイナミズムを全身で表現しています。

ホイールベースは 2,995mm であり、5 名の乗員に十分なスペースを提供します。リヤシートは前後に 100mm スライド調整することが可能です。インテリアの収納スペースは、合計で 14ℓ を超え、ドアには大きな収納スペースが設けられるなど、長距離ドライブの快適性に配慮しています。

ラゲージコンパートメント容量は標準時で



605ℓ、リヤシートバックを折りたたむと 1,755ℓ まで拡大します。電動式テールゲートは標準で、足の動き（キックアクション）でテールゲートを開閉できるジェスチャーコントロールが設定されています。

エクステリアデザイン

ラグジュアリークーペと SUV の出会い

Audi Q8 には、新型 A8 でアウディが導入した最新のデザイン言語が採用されています。力強い造形とアスリートのように引き締まったボディパネルは、パワフルで洗練された印象を与え、フルタイム 4WD の quattro 特有のダイナミクスを表現しています。Q8 は、エレガントな 4 ドアラグジュアリークーペと大型 SUV を巧みに融合すると同時に、アウディのアイコン的モデル、初代 Audi quattro を連想させるデザインモチーフを盛り込んでいます。

Q ファミリーの新たなフロントマスク：八角形のシングルフレームグリル

Audi Q8 の八角形をモチーフとするシングルフレームは、Q ファミリーの新たな特徴です。ラジエーターグリルを縦に走る 6 本のクロームストラットが存在感を生み出し、若干奥に配置されたクロスバーは、ダークグレー仕上げとなっています。シングルフレームグリルとヘッドライトをつなぐワイドなマスクは、パッケージによってボディ同色かアルミ調のシルバーが採用されます。フロントに張り出したスポイラー、両サイドに大きく口を開いたエアインテークが、迫力あるフロントフェイスを形づくりします。

アスリートのような緊張感：サイドビュー

リアエンドピラーへ向かってなだらかにクーペのようなアーチを描くルーフラインは、フレームレスドアのおかげで、ボディ全体にわたって伸びやかな印象を与えます。リアエンドピラーの下には、初代 quattro を彷彿とさせる力強い造形のプリスターフェンダーがあり、フロントホイールアーチ上部のショルダーラインとドア下部の彫り込みと相まって、ボディサイドに光と影の抑揚を生み出しています。



初代 quattro へのオマージュ：ブラックトリムストリップ

リヤエンドでは、長いルーフエンドスポイラー、フラットなウィンドー、水平のライトセグメントとバンパーが、ボディを実際よりコンパクトに感じさせ、スポーティな印象を生み出しています。テールゲートの端部にはリップスポイラーが設置され、quattro プリスターへと繋がっています。左右のリヤライト間には細いライトストリップがあり、その下にハイグロス仕上げのブラックパネルが一体化されています。この連続したライトストリップは、Audi の現行上級モデルの特徴となっており、Q8 のワイドな印象を強調しています。リヤライトは、初代 quattro を連想させる、特徴的なライトシグネチャーを生み出します。



ドラゴンオレンジとギャラクシーブルー：ボディカラーとアタッチメント

Audi Q8 には、導入当初 7 種類のボディカラーが用意されます。新色のドラゴンオレンジは、Q8 の専用カラーであり、このクルマのスポーティなデザインをドラマティックに演出します。S line パッケージを選択すると、シングルフレームのマスク、フロント/リヤ下部セクションの装飾トリム、アンダーボディプロテクション、シルインサートがつや消しのプラチナグレー仕上げとなり、Audi Q8 のダイナミクスとオフロードルックがさらに強調されます。ウィンドーやシングルフレームに施された精妙なアクセントやブラックのスタイリングパッケージングが、Q ファミリーの頂点に君臨するモデルにふさわしい prestige を表現しています。

ライティングデザインとテクノロジー

デジタルキャラクター：デイトタイムランニングライト

ヘッドライトには、LED テクノロジーを採用した 2 種類のバージョンが設定されています。遠くから見ると、上下に分割されたヘッドライトは、非常にスリムに見えます。上部セクションには、デイトタイムランニングライトとロービームなどの機能が一体化されています。ハイビームはその下にレイアウトされ、表面がダーク仕上げとなり、後方にオフセットされています。パッケージオプションの HD マトリクス LED ヘッドライトには、それぞれ 24 個の LED で構成されるハイビームが装着されます。これらのライトは、他の道路ユーザーを眩惑することなしに、路面を正確かつ明るく照らし出します。このライトは、コーナリングライトとしても機能します。

標準装備のデイトタイムランニングライトには、デジタルの世界を象徴したライトシグネチャーが採用され、生き活きとした 3 次元効果を生み出します。このライトシグネチャーは、7 個

の短い縦のセグメントと、ヘッドライト端にレイアウトされた 2 個の長いセグメントから構成されています。長いセグメントは、視覚的なハイライトとなり、Q8 の幅広さを強調しています。12 個のセグメントで構成されるテールライトにも、3 次元デザインが採用され、奥行きを感じさせる水平のライトストリップで左右が接続されています。制動時には、ブレーキライトがテールライトのセグメント間で点灯します。

HD マトリクス LED ライト仕様では、リヤ LED ダイナミックターンインジケーターが装着され、車両の施錠/開錠時に光による演出が行われます。たとえば、リーピングホーム機能をオンにした状態でドアのロックを解除すると、内側から外側へと LED 照明の暗い部分がスワイプした後に、すべてのエレメントが最高輝度で点灯します。カミングホーム機能をオンにした状態では、リーピングホームとは反対のシーケンスで光の演出が実行されます。ヘッドライトとテールライトのハーモニーにより、Q8 にダイナミックなキャラクターが追加されます。

ドライブトレインとシャーシ

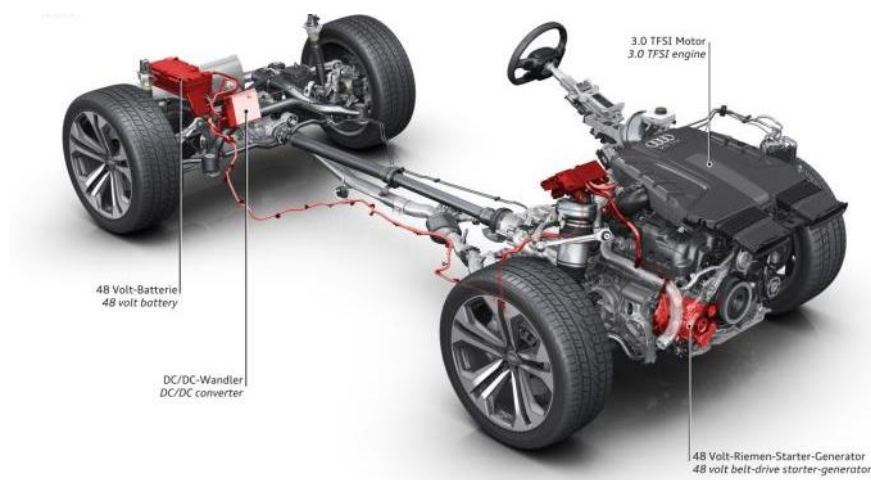
パワフル、洗練、高効率を誇る 3.0 TFSI エンジン

Audi Q8 は、3.0 TFSI を搭載する Audi Q8 55 TFSI が最初に発売されます。この V6 ガソリン直噴ターボエンジンは、250kW (340ps) の最高出力と 500Nm の最大トルクを発生します。これにより、この大型 SUV は、0~100km/h 加速を 5.9 秒*でこなし、最高速度は 250km/h*に達します (*欧州仕様車値)

新型 Q8 55 TFSI に搭載される 3.0ℓ V6 エン진은、ごく低い回転域から 500Nm の最大トルクを発揮します。排気系と一基のツインスクロール ターボチャージャーは 90 度 V バンクの内側に配置されており、排気バルブからタービンまでの距離がごく短いことから、極めて俊敏な過給レスポンスを実現しています。中間負荷域で特に効果を発揮する、いわゆる「B サイクル」燃焼方式を採用し、エンジン負荷と回転数に応じてインテークバルブの開閉タイミングとリフト量を 2 段階に切り替えるアウディバルブリフトシステム (AVS) と併せて、高い燃費効率を実現したガソリンエンジンとなっています

リチウムイオンバッテリーとベルト駆動式オルタネータースターター：マイルドハイブリッドテクノロジー

新型 Q8 の TFSI エンジンにはマイルドハイブリッドシステム (MHEV) が採用されています。これは実際の走行において燃料消費を 100km あたり最大 0.7ℓ 減らす効果 (欧州計測値) があります。MHEV の中心は新たに開発された 48V のメイン電源システムであり、これはラゲッジルームの床下に搭載された容量 10Ah の小型リチウムイオン電池、クランクシャフトに連



結されたベルト駆動のオルタネータースターター (BAS) から構成されています。新システムの効果は明らかです。55~160km/h の範囲でドライバーがスロットルペダルを戻すと、新型 Q8 はエンジンを停止してコースティング (惰性走

行)、つまりゼロエミッションのまま最大 40 秒間の走行が可能です。ドライバーがスロットルペダルを再び踏み込めば即座に、BAS がエンジンをスムーズに再スタートさせます(冷間始動のため、従来の 12V スターターも用意されています)。加えて、この新しい 48V システムによって、22km/h 以下でのエンジンのストップ&スタートと最大 12kW という高いエネルギー再生能力を実現することができました。

非常にスムーズで素早いシフト：トランスミッション

新型 Q8 のエンジンは、素早くスムーズに変速し、さら効率にも優れた新開発の 8 速ティプトロニック(トルクコンバーター付き AT)と組み合わせられます。この最新の V 型ユニットでは、遠心振り子を備えたエンジン回転数対応型トーショングダンパーが、不快な振動を吸収する役割を果たしています。そのおかげで 1000rpm という低いエンジン回転数も、快適性を損なわずに使えるようになりました。ドライバーが D(ドライブ)、S(スポーツ)およびドライブセレクト内の E(エフィシエンシー)の各モードを選択した場合は自動変速、自らシフトを制御したい場合には M(マニュアル)モードが用意されています。セクターレバーはデザイン性に優れた電子式です。

MHEV システムの採用に対応して、Q8 のティプトロニックにはいくつかの改良が施されています。エンジンがアイドル状態、または停止状態でコースティングする場合にはトランスミッションのクラッチが切り離されてパワーの伝達を遮断します。エンジン停止でのコースティング中には、新たに搭載した電動オイルポンプがコースティング終了時に速やかにギヤに入るよう働きます。シフトプログラムと接続ロジックも、素早く駆動力が立ち上がるように最適化されています。トランスミッション内の駆動抵抗もさらに低減され、樹脂製のオイルパンの採用で軽量化も図られています。改良が施されたトランスミッション制御モジュールは、ストップ&ゴーを繰り返すような交通状況を検知し、そのような状況下では不要な変速を減らしたり、セカンドギヤでの発進を積極的に選択したりします。

センターディファレンシャル式 quattro システム

アウディの歴史は、quattro の歴史でもあります。アウディの SUV ラインナップの頂点に君臨する Q8 には、全車にフルタイム 4WD システムが標準装備されます。プラネタリーギヤを中心とするセンターディファレンシャルは、純粋な機械式システムであり、通常は 40:60 の比率でフロントアクスルとリアアクスルにトルクを配分します。いずれかのホイールでスリップが発生した場合は、パワーの大半をトラクションが高い側のアクスルに自動的に振り向けます。この場合、駆動力の最大 70%をフロントアクスルに、最大 85%をリアアクスルに配分することができます。スポーティな走行時には、エレクトロニックスタビリゼーションコントロール(ESC)のインテリジェントなソフトウェアであるホイールセレクトィブトルクコントロールが、内側のホイールにごくわずかに制動をかけます。これにより、クルマはコーナーの内側に向けて微かに姿勢を変えるようになり、コーナリング中もニュートラルな特性が維持され、正確で安定したハンドリングが実現しています。

スポーティで堅牢なサスペンション

ワインディングロードでは優れたレスポンスを、高速道路では高い安定性を、オフロードでは卓越した信頼性を発揮。Q8 のサスペンションは、様々な局面における最高のキャラクターを融合させています。フロント、リアともに 5 リンクサスペンションを採用し、前後方向から作用する力と左右から作用する力に、それぞれ独立して対処します。リンケージとサブフレームは、その大半がアルミニウム製です。トレッドは、フロントが 1,680mm*、リアが 1,690mm*です。

*エアサスペンション装着車の場合、1,685mm と 1,695mm

標準装備されるプログレッシブステアリングは、通常の状態でも 14.6:1 というスポーティなレシオに設定されており、ステアリングを切るにつれて、よりダイレクトなレシオへと変化します。電動パワーステアリングシステムは、路面からの正確なフィードバックをドライバーに伝達します。

Audi Q8 には、オールホイールステアリングがパッケージオプション設定されています（A8 などと異なり、フロントのダイナミックステアリングは設定されません）。このシステムでは、高トルク電動スピンドルドライブと 2 本のトラックロッドが後輪を操舵します。低速域では、リヤホイールはフロントホイールとは反対方向に最大 5° まで操舵されます。これにより回転半径が 5.6m と非装着に比べて 60 センチ小さくなります。高速域では、フロントホイールと同じ方向に最大 1.5° 操舵することによって、車線変更時などの安定性を向上させます。

Audi Q8 には、空力特性に優れた 20 インチホイールと 275/50 タイヤが標準装備されます。22 インチホイールは S-line パッケージに設定され、これには 285/40 タイヤが組み合わされます。22 インチホイールには、トラス吸収材（走行面とカーカス間に装着されたフォームパッド）が不快な周波数やノイズの拡散を抑制します。フロントアクスルには、6 ピストンの固定式ブレーキキャリパーが採用されます。ブレーキディスクのセントラルポッドはアルミニウム製で、ベンチレーテッドタイプのフリクションローターは鋳鉄製です。フロントディスクの直径は 375mm、リヤは 350mm です。

あらゆる路面に対応：アダプティブエアサスペンション

Audi Q8 に標準装備されるのは、減衰力調整機能を備えたダンピングコントロールサスペンションです。パッケージオプションを選択すると、自動車高調整機能を備えたアダプティブエアサスペンションが装着され、S line パッケージでは「スポーツ」のセッティングとなります。このサスペンションを選択すると、スチールスプリングサスペンションよりも車高が 15mm 低くなり、最低地上高は 220mm になります。エアサスペンションは、アウディドライブセレクトを介して、4 種類の走行モードを選択することができます。ドライバーの選択及び走行状況に応じて、最大で車高を 90mm 変化させることができます。30km/h までであれば、ドライバーは、車高を最大で 50mm 高めることができます。車速が上がるとサスペンションは段階的に車高を下げ、空気抵抗を軽減するとともにドライビングダイナミクスを向上させます。160km/h 以上の速度に達した場合、またはダイナミックモードが選択された場合、車高は標準レベルよりも 40mm 低くなります。駐車すると、標準レベルよりも車高を 65mm 下げ、乗降性を高めることができます。

高度なネットワーク：アウディドライブセレクト&エレクトロニックシャシープラットフォーム

Audi Q8 は、アウディドライブセレクトを介して、7 種類の走行特性（コンフォート、オート、ダイナミック、インディビジュアル、エフィシエンシー、オールロード、オフロード）を選択することができます。但し、オフロードは、エアサスペンション装着車のみ選択可能です。ダイナミックハンドリングシステムは、エンジン、トランスミッションマネジメント、パワーステアリング、オートエアコンディショナーの機能、オプションのオールホイールステアリングなどを管理しています。

サスペンションシステムの制御機能は、エレクトロニックシャシープラットフォーム（ECP）のコントロールユニットに組み込まれています。システムは高度にネットワーク化され、最高レベルの精度によって協調的に作動します。これにより、減衰力の調整は、わずか数ミリ秒単位で行われます。ECP は、セントラルサスペンションコントローラーとして機能し、車両の挙動や関連する各種システムからの主要なデータを収集します。インテグラルダイナミックハン

ドリリングコントローラーは、これらのデータを活用して、各コンポーネントの理想的な機能を計算します。

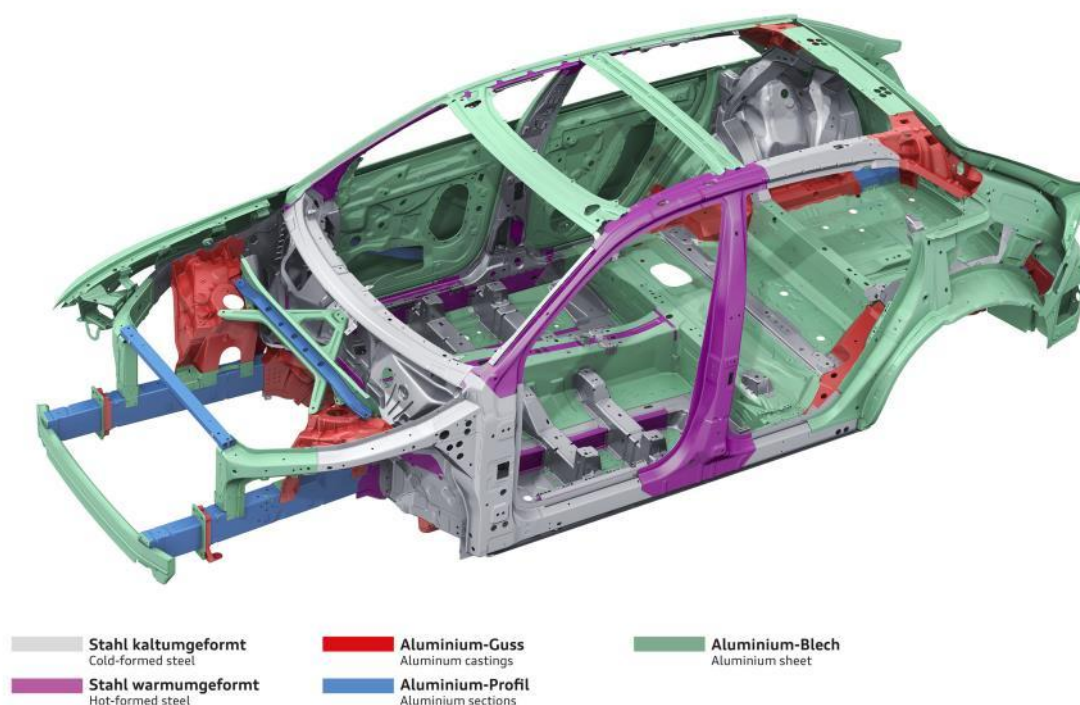
オフロードを走破：ヒルディセントコントロール

オフロードでは、quattro ドライブ、短いオーバーハング、高い最低地上高を持つアダプティブエアサスペンションが真価を発揮します。標準サスペンションの場合、車高は 220mm に設定されています。アウディドライブセレクトでオフロードモードを選択すると、エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）は、自動的にスタビリティ、トラクション、ブレーキの各コントロールモードをオフロード走行に最適化させるだけでなく、標準装備されたヒルディセントコントロールも作動可能な状態に切り替えます。このシステムは、6%以上の急な下り坂で、自動的にブレーキをかけることにより、ドライバーをサポートします。

システムは、ドライバーがアクセルとブレーキを使用して設定した速度を一定に保ちます（最大で 30km/h）。この機能により、ドライバーは路面の状態に集中することができます。エレクトロニックシャシープラットフォーム（ECP）は、車両の傾斜角を取得し、その情報を MMI ディスプレイに表示します。ESC には、エンジントルクとエンジンブレーキを調整して、より俊敏なハンドリングを実現する、スポーツモードも設定されています。また、ボタンを押すことによって、ESC 機能の一部を解除することもできます。

ボディ

インテリジェントな素材ミックス：マルチマテリアル ASF



Audi Q8 のボディは、高度に洗練された方法で複数の素材を組み合わせた、マルチマテリアル構造のアウディスペースフレーム（ASF）を基本としています。多くのコンポーネントは、アルミニウム及び熱間成形スチールで製作されています。Audi Q8 55 TFSI quattro の車両重量は 2,140kg で、この重量には MHEV テクノロジーやリチウムイオンバッテリーが含まれています。熱間成形スチールの割合は、ホワイトボディ重量比率で 14.4%となっており、非常に

高い強度を備えた乗員セルの骨格を形成しています。熱間成形スチールは、バルクヘッド下部セクション、サイドシル、リヤの縦メンバー、B ピラー、ルーフフレームのフロント部にも使用されています。一部のエリアでは、1~2mm の間で壁厚を変化させる、テーラードブランクを採用しています。テーラードブランクによって、軽量化と高強度が両立しています。

エンジンコンパートメントのストラットマウント、シル及びフレームメンバーの接続部などに使用されている鋳造アルミニウムの重量比率は 15.0%です。このうち 2.4%は、フロントセクションを構成するコンポーネントが占めています。サイドパネル、フロアの大部分、リヤホイールハウジング、ルーフは、アルミニウムシート製です。フレームレスドア、フロントフェンダー、テールゲートも同様です。その重量比率は、23.7%に達します。

静かな室内：高い剛性と優れた音響特性

Audi Q8 のボディは、トーションリングと呼ぶ新しい設計コンセプトを採用したことなどによって、非常に高い剛性を誇っています。この高剛性ボディは精密なハンドリングの基礎となり、舗装路とオフロードを問わず、俊敏なドライビング特性を実現しています。リヤエンドの構造を最適化したことにより、快適性や安全性を犠牲にすることなく、C ピラーを略することが可能になりました。正面衝突に際しては、フロントエンドの3つの構造材が衝撃を吸収する役割を果たします。縦メンバーの補強材は、場所によって肉厚を変化させており、衝突時には事前に設計されたとおりに変形します。

Q8 のインテリアは、入念な防音処理や音響工学的アプローチによって非常に静かです。フロントウィンドーには、2 層構造のガラスが採用されています。さらに、前面投影面積は 2.84m²、空気抵抗係数 (Cd) は 0.34 であり、SUV として比較的低い空気抵抗に抑えられています。

インテリア

複雑さを排したシンプルな構成：インテリアデザイン



Audi Q8 のインテリアは、豪華なラウンジを連想させます。その中心的な要素が、MMI タッチレスポンスのディスプレイです。ブラックパネルのディスプレイは、イグニッションスイッチをオフにすると、ブラック基調の装飾トリムパネルに溶け込んで、ほとんど見えなくなります。MMI タッチレスポンスが作動すると、シンプルで分かりやすいグラフィックが表示されます。これは、精密なデジタル技術、アーキテクチャーと操作コンセプトを高度に統合したもので、複雑なものをシンプルなものに置き換えるというアウディの思想が反映されています。クローム処理されたフィンを備えて助手席へと伸びるエアベント、エレガントなアルミニウム製のトリムストリップなど、すべての基準ラインは、この大型ディスプレイを起点としています。

スリムなダッシュボードと力強い水平基調のラインが、インテリアの幅広さを際立たせています。大きな開口部を備えたパノラマガラスサンルーフを装着すると（ラグジュアリーパッケージに設定）、室内の広さがさらに強調されます。インテリアは、クリーンでシンプルな印象を与えるように設計されています。フロントドアからダッシュボードにかけては「ラップアラウンド」な形状になっており、ブラックパネル調のライトスイッチに至るまで、すべての要素は論理的な関連性を持ち、相互に調和して静かで落ち着きのある空間を生み出しています。

Audi Q8 の室内における、もう一つの重要なデザイン要素は、幅の広い左右対称のセンターコンソールです。このコンソールには、印象的なクロームストリップが配され、SUV のキャラクターを明確に表現しています。ここには、ティプトロニックのセクターレバーとエレクトロニックパーキングブレーキ用のスイッチのほか、MMI タッチレスポンスのローワースクリーンも設置されています。

新型 Audi Q8 に装備されるマルチカラーアンビエントライティングは、インテリアを魅力的に彩ります。コンポーネントの表面から反射される間接照明により、インストルメントパネル、ドアのライニング、センタートンネルは、あたかも宙に浮いているように見えます。グローブボックスに設置され、レーザー加工が施された立体的な quattro ロゴも、バックライト照明によって暗闇に浮かび上がります。さらに、S ラインパッケージを選択すると、ドアシルトリムも照明付きになります。

居心地の良い空間：4 ゾーンオートマチックエアコンディショナーとマッサージシート

Audi Q8 には、2 ゾーンオートマチックエアコンディショナーが標準装備されます。さらにオプションパッケージでは、4 ゾーンオートマチックエアコンディショナーが装備されます。このエアコンには、アレルギー物質と汚染物質を効果的に除去するフィルターが装着され、後席用の独立したタッチコントロールパネルも装備されます。アウディ車としては初めて、エアクオリティパッケージが用意され（ラグジュアリーパッケージ）、室内を高品質な空気で満たします。このパッケージには、微かな香りを漂わせるフレグランスディフューザーとイオン化装置が含まれます。

Audi Q8 には、3 種類のフロントシートが用意されています。標準シートの他に、オプションとしてスポーツシートが設定されています。様々な方向に調整可能なコンフォートシートは、非常に優れた快適性を提供します。このシートは 3 段階に調整可能なベンチレーション機能を備えています。さらに、ラグジュアリーパッケージでマッサージ機能を追加することもできます。マッサージ機能を装備すると、10 個の空気圧調整式のエアポケットが伸縮して、背中のコリをほぐしてくれます。マッサージ機能には、7 種類のプログラムが設定され、3 段階に強度を調整することが可能です。

上質なスポーツ性：カラーと素材

Audi Q8 には、数多くのカラーと素材が設定され、エクスクルージブでスポーティな雰囲気を醸し出す、エレガントなインテリアが実現しています。標準装備されるシートにも、本革及び合成皮革の組み合わせが採用されています。S ラインパッケージを選択すると、パールナ

ツパレザーとエンボス加工されたアルカンターラを組み合わせた、コントラストカラーステッチが施されたスポーツシートが装備されます。

Audi Q8 専用に開発された新しいアルミニウム製のトリムを装着すると、室内は非常にスポーティな雰囲気で満たされます。このトリムは、触感及びシボ加工の点で、際立った存在となっています。S ラインパッケージでは、ブラシ処理が施されたつや消しアルミニウム製のトリムが、ダイナミックなキャラクターを強調しています。

操作系とディスプレイ

新しいコンセプト：スイッチの代わりにタッチディスプレイを採用

Audi Q8 の室内には、ボタンやスイッチ類がほとんどありません。それらの機能は、2つの高解像度ディスプレイに集約されています。それにより、アウディの伝統となっている妥協しない高い品質レベルを、デジタルの世界へと移植することに成功しています。グラフィカルユーザーインターフェイスは整然と配置され、情報をすばやく読み取ることができます。スマートフォンと同様に、メニュー構造はフラットで分かりやすく、スクロールやフリップ操作ができます。

10.1 インチのアップースクリーンは、インフォテインメント及びナビゲーションシステムを操作するために使用します。8.6 インチのローワースクリーンは、空調システムの操作に加え、各種コンビニエンス機能やテキスト入力に使用します。ドライバーは、ティプトロニックの幅広いセクターレバーに手首を載せて、これらの機能を快適に操作することができます。MMI タッチレスポンスのコンセプトにより、素早く信頼性の高い操作が可能です。機能が有効になると、触覚及び音響フィードバックが発せられます。

ローワースクリーンを使ったテキスト入力は、同じ場所に重ねて書いた文字も認識することができます。音声フィードバックで確認を行います。

よりスポーティに：アウディバーチャルコックピット

Audi Q8 には、アウディバーチャルコックピットが標準装備されます。高解像度の 12.3 インチディスプレイ（1,920x720 ピクセル）は、マルチファンクションステアリングホイールを介して、2種類のビューを切り替えることができます。

インフォテインメントシステムとAudi connect

Audi Q8 には、Audi connect が標準装備されており、オンラインニュース、天気予報、Google Earth を使用したナビゲーションなど、数多くのサービスを提供しています。myAudi アプリでは、窓の開閉状況や駐車位置などの車両状態の確認や、クルマの施錠/開錠、スマートフォンで検索した目的地をクルマに送信する等のリモート操作も行えます。また、Audi SOS コール、Audi オンラインロードサイドアシスタンス、Audi メンテナンスリクエストといったお客様が安心して車に乗るための機能も備えています。

ドライバーアシスタンスシステム

Audi Q8 は、駐車場、市街地、ロングドライブなど、さまざまな状況でドライバーをサポートします。アダプティブドライブアシスト（ADA）、アウディプレセンスベシック、サラウンドビューカメラ、アダプティブクルーズコントロール、アクティブレーンアシスト、プレセンスシテ

ィなどが標準で装備されるほか、コンフォートアシスタンスパッケージでは、これに加えて、フロントクロストラフィックアシスト、プレセンスフロント/リヤ、サイドアシスト、ターンアシストなどが装備されます。フロントクロストラフィックアシストは、車両のフロントコーナーに設置され、約 75m の距離で測定できる中距離レーダーを使用します。システムが車両前方を横切るクルマ等を検知すると、視覚的及び音響的な警告メッセージを発し、必要に応じてブレーキを発動します。

アシスタンスシステムの中核となるのは、アダプティブドライブアシスト（ADA）です。ADA は、アダプティブクルーズコントロール、トラフィックジャムアシスト、アクティブレーンアシストを統合し、250km/h までの速度で、加減速及び車線変更のサポートを提供し、とくに高速道路やロングドライブにおける快適性を大幅に向上させます。このシステムは、道路標示、道路脇の構造物、隣接する車線の車両、先行車を検出します。道路工事が行われている区間では、速度制限を考慮しながら、自動的にクルマの速度を交通状況に適応させます。

コンフォートアシスタンスパッケージに含まれるエマージェンシーアシストは、限度内で、ドライバーが危険に反応しているかどうかを検知し、反応していない場合は、視覚的及び音響的な警告メッセージを発し、ブレーキを短時間作動させて、ドライバーによる操作を促します。それでもドライバーが反応を示さない場合は、システムが Audi Q8 の制御を引き受けて、クルマを現在の走行レーン内に自動的に停止させます。さらに、アウディプレセンスの安全機能を作動させて、自動的に Audi SOS コールを発信します。

さらにアウディはパーキング時のサポートを提供します。カーブストーンアシスト（標準装備）は、A8 で最初に導入されたシステムで、MMI スクリーン上のカメラビューにより、縁石への接触を回避するのに役立ちます。

高精度の運転支援を可能にするシステム

Audi Q8 の数多くのアシスタンスシステムは、運転席の下に設置されたコンピューター、センทรัลドライバーアシスタンスコントローラー（zFAS）によって実現しています。zFAS は、車両周囲の環境モデルを連続的に計算します。この環境モデルは、ブレーキをかけるタイミングなど、アシストシステムが精密かつタイムリーに物体に反応することを可能にしています。また、各センサーからのデータを統合することによって、正確なナビゲーションや運転支援を実現しています。

zFAS は、最大 5 基のレーダーセンサー、5 台のカメラ、12 個の超音波センサーなどからデータを取得します。

以上